

(7) ウナギ (一部オオウナギの可能性あり) (ウナギ目ウナギ科)

① 分布

流域の全集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 池, 水田など

③ 採録した呼び名

- ・ 標準和名 ウナギ (全集落)
- ・ 稚魚 (小型魚) イトウナギ, イトメ, コウナギ, シロウナギ, ドジョウナギ, ハリウナギ, ミミズウナギ, メメズウナギ, メソ, メメソ, メメロ, メメンソ, メメンチョ
- ・ 体色 (青) アオアオ, アオウナギ, アオタ, テンネン
- ・ 居着いている ジウナギ, ジナ, ジナッポ, (テンネン)
- ・ 川を流下 オチウナギ, クダリウナギ, ヤキダサレ
- ・ 川を遡上 ノボリ, ノボリウナギ
- ・ 色のはげた デンキウナギ
- ・ 黒斑点 イモクシウナギ, カレハウナギ, ゴマウナギ, シマウナギ, ソバカスウナギ, ブチウナギ
- ・ その他 カニクイ, ガニクイ



④ 分布と呼び名について

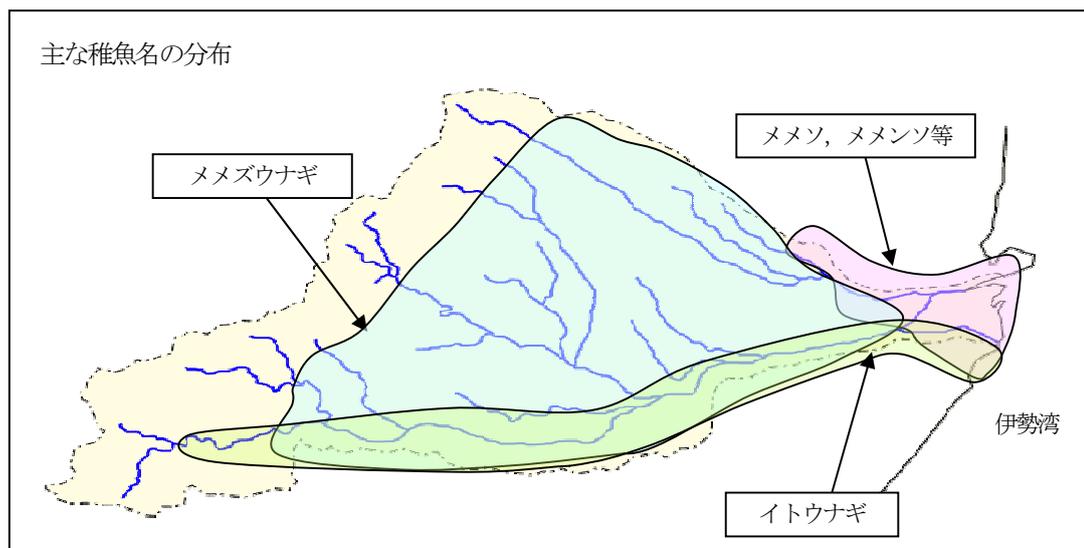
流域全域の川, 水路, 池のほか, 水田でもよく見られたという。

呼び名としては, 標準和名である「ウナギ」をはじめ, 稚魚名, 遡上・遡降, 体色からのものなど計 35 種を採録した。

小水路や水田でも身近に見られた大型魚であるとともに, 貴重な食料源として流域住民に最も関心が高かった魚でもあるため, 小型魚, 体色等で多様な呼び名が見られた。

中でも, 稚魚については, 中下流域を中心に多様な呼び名を採録し, 最下流域では主として「メメソ」, 「メメンソ」, 鈴鹿川本流沿いに「イトウナギ」, また上流域から下流域にかけては「ミミズウナギ」, 「メメズウナギ」と広く呼ばれた。

また, 黒斑点のウナギも全域で見られたようで, 「ソバカスウナギ」をはじめ, 6 種採録した。



⑤ その他

関町加太地区などで, 夜に田へウナギを取りに行くことを指す「夜田 (よた) に行く」という言葉を採録したが, かつてはそれだけウナギの水田への遡上が見られたようである。

※ オオウナギについて

ウナギの呼び名の調査において、オオウナギの可能性のある呼び名を流域全体から次の8種を採録した。とりわけ「ソバカスウナギ」の呼び名は中上流域の多くの集落で採録された。

こうした呼び名のウナギは、一般のウナギに比べ数が非常に少なく、比較的大型で体全体に黒い斑があるといい、オオウナギ特有の特徴を持っていたようである。

黒斑点	イモクシウナギ、カレハウナギ、ゴマウナギ、シマウナギ、ソバカスウナギ、 ブチウナギ
その他	カニクイ、ガニクイ

なお、「カニクイ」、「ガニクイ」については特徴が不明確な面があるが、過去の文献（「熊野灘沿岸地方の淡水魚：1959：岡田弥一郎他」など）でオオウナギとされていることからここに含めた。

本聴き取りにおいてはオオウナギを調査対象としておらず、ウナギの昔の呼び名を調査してゆく中で、こうした呼び名を採録したものである。ここにおいては、こうした呼び名のウナギがオオウナギの可能性があるとこの指摘のみ行っておく。

(8) スナヤツメ（ヤツメウナギ目ヤツメウナギ科）

① 分布

最上流域及び最下流域を除く集落

② 主に見られた場所

川、水路

③ 採録した呼び名

- ・ 共通 ヤツメ、ヤツメウナギ
- ・ その他 ミミズウナギ、メモロ

④ 分布と呼び名について

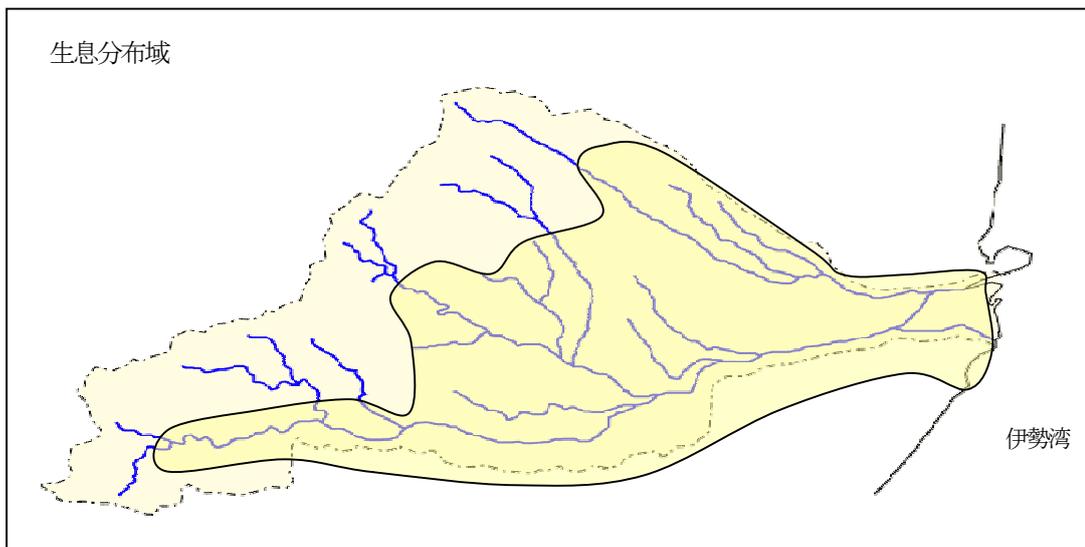
上流域から下流域にかけて、川を中心として水路でもよく見られたという。とりわけ堰堤下や石の下などに群生していたという話が聞かれた。

呼び名としては、一般的な「ヤツメウナギ」をはじめ、稚魚名2種を含め計4種を採録した。

ほぼ流域全体で目が八つあるように見えることから名付けられた「ヤツメウナギ」及びその省略形である「ヤツメ」を採録したほか、特徴が明確でない小型魚はウナギの稚魚と同様に呼ばれたようである。



(水野知巳・聡子氏撮影)



⑤ その他

「本種を食べると目が良くなる」と言われ、食べたという話を数集落で採録した。